
ヒロユキと～

木赤

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ヒロユキと〜

【Nコード】

N0757E

【作者名】

木赤

【あらすじ】

中学三年生裕幸と少しタイ姉、その他の仲間達が繰り広げるかもしれない、楽しいかもしれない日常的小説です

1・ヒロユキと姉（前書き）

駄文ですが読んで頂けたらうれしいです。

1・ヒロユキと姉

『ヒロくんヒロくん。早く起きなよ…』

『……………』

『起きなつて、七時だよッ』

僕は”片山裕幸” 15才の中学三年生です
親は仕事で海外です
家では姉の”片山空” 24才と暮らしてます

姉は社会人と呼ばれる年齢にも関わらず就職はおろかアルバイトすらしてません。

世間でいうニートですね

でも生活費は母が送ってくれてるので問題は無いです
全体的にも問題が無い…いやあった、姉が……

『起きろつて……まだ4時だよね、姉さん』

『えっ…………あつ…うるさいッ！さっき学校から電話があつたの！…さっき…こ…校長先生が、死んだから今から運動会するってさッ！』

『ボケえ！！あんなに元気な校長が死ぬか！ってか死んだから運動

会って意味不明だッ!！」とりあえずツッコんでおく

『うう…!』

『嘘は解ったから、用件は?』

『あ…そうそう!新作のゲーム買ってきたのを、さっき思い出したからヒロくんとやろうと思って』

…と、姉は変なんです。なんていうか…性格が

『なんで今起こすの?どう考えても非常識でしょ』

『え…何でって、思い出したから』

は…まあいつもの事だから慣れてるけどね

『さっきから独り言多いよヒロくん、
もしかして頭イタイの?』

『あんたに言われたらおしまいだッ』

………

その後姉から逃げられず、結局学校に行く7時まで付き合わされま
した

通学路

『何で姉さん着いてくるの』

『今日はペットショップで猫ちゃんを見に行くのよん』

『ペットショップってこんなに朝早くから開いてるの?』

『開いてるの?』

『いや疑問文で返されても…、しかも姉さん方向音痴なんだから一
人で行けないでしょ。今日は家に居なよ、四時には帰ってくるから
さ』

『分かったあ……帰ってきたらゲームしようねッ』

『はいよーじゃあねバイバイ』

『バイバイッ!』

姉が短い手をフルに使って手を振っている

――

『ただいまー』

『あッおかえり！ゲームしよ』

早っ

『はいはい』

.....

ふう...腹減ったな

『姉さん、ご飯食べに行こっ』

『カレー！...！』

『…………カレー食べたいの?』

『カレーカレーカレー』

『じゃあココ。ちにしょつか』

『ざるそばー!』

『ざるそば食べたいの?』

『ざるそばざるそば』

『じゃあざるそば食べに行こうか』

『ピザー!』

『……………』

そんな感じが20分程続き、

結局家でホットケーキを作って食べました

まあこんな感じですよ我が家は

……頑張るよ僕

2・ヒロユキと詐欺

『えへ フルハウスッ!』

『ロイヤルストレートフラッシュ』

『くうっ…! 負けたあ…』

『てか、それフルハウスじゃなくて只のワンペアだよ。どう見たらフルハウスになんのよ姉さん』

『ちいッ…近眼だよッ! 馬鹿にするなッ』

……

『まあ……姉さん罰ゲームね』

罰ゲームは勝者は敗者に一つだけ命令できるってやつさ

『なにを命令するのお……? ……いゃん／／／』

『勝手に想像して勝手に照れるなボケい!』

ふっ…

『で、命令は…』

『えっ！！！私の肩揉みがしたいって？…いいよッやらせてあげるわ』

……………は？

『いやちよつと待ってよそんな事僕言っていないし』

『嫌なの？』

『嫌っていつか…僕が命令する番だし…』

『まんざらでも無いくせに』
うざー…姉うざー…

揉み揉み……………

もみもみもみゆもみゆ……………

結局僕やってるし…

『もういい？』

『ああゝありがとうヒロくん』

何で僕はいつもこうなんだろう。姉の言う事は断れない。結局はシ

スコンなんだろう。いやいやススコンでは無いッ！……無い……は
ずだ。別に姉さんの事が鬱陶しくて嫌いって訳じゃない、むしろ好
きだ。それはススコンだ。ふざけんな。なんじゃこりゃ。もういい
や。

『姉さん姉さん、そろそろバイトでもしたら？』

『なんでえ？』

『なんでって、姉さんもう24なんだし……』

『今は母さんから生活費結構もらってるから生活には苦勞してない
でしょ？………んで……可愛い弟ともまだまだ一緒に遊びたいしね……』

『姉さん………ってそんな言い訳只のニートじゃん
！…！働こうよ！…！』

『働いたら負けかな………と思ってる』

『おいニート姉』

『ヒロくん目が怖い………』

『一日で良いからティッシュ配りからでも始めようよ……！…！』

『やーだーしんどいー』

『それなら、もう一緒にゲームしてあげないよ？』

ふっ…姉さんにこの、一生あげないよ攻撃はよく効くんだ

『うう…ヒロくんの鬼』

『じゃあ仕事する？』

『一日だけだよ…』

『よしッ！じゃあ今からバイト見に行こう！』

『は～～～い』

『あんまり短期のアルバイト募集してる所無いね姉さん』

『そうだね晴れ後スキだよね』

姉がまた何か、はぴ。す！っぱい事言ってるけどいつもの事だから
そつとしくよ

多分少ない読者の内の1割も解らない台詞だね

『あつ、これ何かどう？日払い一日だけ働くのもOKだって』

姉さんが見つけたのは普通の会社の宣伝用ティッシュ配りだった

『うん、良いんじゃない。』

『行つて来なよ待ってるから』

『ういっす！！了解しました！』

40分後姉さんは大きな段ボールを持って出てきた

『ドサツ…………ふう、これ全部配れてき。かったるいよう』

『はいはい頑張つてね』

『ヒロくん手伝ってくれないの？？』

『これは姉さんの仕事でしょ？俺は手伝わないよ。見守つとくよッ』

『ぶ〜〜〜』

『……………』

『ぶ〜〜〜ぶ〜〜〜』

『……………』

『ぶ~~~~ぶ~~~~ぶ~~~~!!..!』

あーッ!..!!うるさいわアアア!やればいいんだろやればッ

『解ったよッ!..!手伝うよ!.....でもちよつとだけだからね』

『やった♪ありがと!ヒロくんッ』

今、姉は(^ 3 ^) / ↑こんな感じです

『あーはいはい、じゃあ早くやる』

とりあえず終わったな。段ボール一箱って結構多いな。案外すぐ済むと思ってたけど、人通りは多くてもあんまり貰ってくれないよ。

『じゃあヒロくん、お給料貰ってくるねッ』

『姉さん、いくら貰った？』

『んーと…300円…？』

『いやそれは無いでしょ。ちょっとみして』

……

(。 4 (

……

『300……マジかよ…僕ら結構働いたのに…300円はないよ…』

明らかにおかしい……

『ちょっと聞いてくるよ姉さん。待ってて』

『うん…』

『ちょっと、3000円って何ですか？姉はかなりの時間働いてちゃんとノルマの分配ったのに！明らかに少なすぎるでしょ！』

『いやあ〜ちゃんとチラシに書いたんだけども〜読んでないのかな？』

『ちゃんと読みましたよ！段ボール一箱配るだけで3000円……って』

そりゃあ僕はアルバイトとかした事ないからよく解らないけど3000円は異常に少ないだろ

『ちゃんと読んでよ、ほらこじ……』

段ボール一箱配るだけで3000円！……日払いOK

→

こじ

3000円！の横にすごく小さな文字でこう書かれていた

ってのは嘘で、やっぱり3000円ですよ〜

……………

あ ん で す と

ああああああ

『 帰るッ!-! 』

『 あっヒロくん 』

『 帰ろ姉さん!-! 』

『 えっ えっ ? ええっ ? 』

僕はゲイゲイと姉さんの手を引いて早足で歩き出す

『 今度は普通のバイトやろっね姉さん 』

『 えっ ? あっ … うん … 』

『 ふう …… もうッ何なんだよあの会社…。詐欺だよ詐欺! 』

『ねえ〜ヒロくん、落ち着いてよう…』

『姉さんもむかつくだろう？あんなに姉さん頑張ってたのにさ』

『私なら大丈夫だよともとお給料貰っても買うものなんて無かったしね。気に掛けてくれたんだね私の事』ありがとね』

『ん…姉さんが良いなら別に、もう良い…かな』

正直僕は何に対して怒ってたのかよく分からなかった。んー…やっぱ…わかんないな。って姉さんの為に怒ってたのかな。でもそれは別に当然の事であって、シスコンではない。

その日はもう寝ることにした

『おはようッヒロくん』

『おはよう姉さん……って何読んでるの？』

『求人雑誌』

マジ……………

『姉さん本格的に働く気になったの?!』

『このお姉さんに任しなさいッ!』

どんつと胸を叩く姉

ほんとあの姉さんが働く気になったなんて嬉しいな。でも働くって事は夜とかもいつもみたいに話したりゲーム出来ないって事が……寂しい気もする……。

いやいやせつかく働くんだから応援してあげないと!……

『飽きたー』

『え』

『だから、飽きたのおー』

『何に?』

『求人雑誌を読むのが』

『……働く気は？』

『無いね』

『……』
『……』

まあ……いいか。

3・ヒロユキとしゃぶしゃぶ

『おはよう姉さん』

『おはようヒロくん今日はお出かけたアツー♪楽しみだアツー』

長かった夏休みも今日で終わりです。最終日という事で

姉さんと僕と姉さんの友人と親友の友希の四人でしゃぶしゃぶ食べに行きますアヒヤ至って冷静な僕は姉さんみたいにはっちゃけたりしませんけどねアヒヤ

『姉さん姉さんしゃぶしゃぶ楽しみだねアヒヤ』

『ヒロくん語尾が少しキモイようアツー』

『姉さんこそ何で叫んでるのアヒヤ』

『だってえテンションが上がって…手手手ツ手手手ツ手手手ツ手手手ええ』

『どこ中原西ですか』

あつ 治った

『ヒロくんー早く行こうよう』

『あー待ってよ姉さん』

時刻はただいま10時

しゃぶしゃぶ屋さんまでは車で1時間程だ

姉さんの友達である由香里さんの車に乗る

由香里さんの家はウチから歩いて7、8分の場所にある。

由香里さんと合流してから友希の家に行き、それか目的地へGOと
いった形である。

『あは、ユツカあ』

『あつ！空、おはよーさん、ヒロもおはよー』

言ったかもしれないけど空とは姉さんの名前です
姉さんは由香里さんの事をユツカと呼んでいる
独特だね

『おはようございます由香里さん。』

『まゝた敬語止めなさいって言ってるじゃん』

『あつすいません…じゃなくてごめん。』

何故僕が由香里さんに対して敬語なのかというと、由香里さん……
いや、由香里先生は……

僕の担任なんです

去年、新任教師として僕らの学校に入ってきて、僕らのクラスの担任になり、今年で担任2年目です

学校では教師と生徒っていう関係なんで敬語で会話してるから、普段も敬語が抜けなくて…それでプライベートで敬語は堅苦しいという事で…止めなさいと。

由香里さんは姉さんが高校生の時からの友達なので僕も小さい頃からよく遊んでもらったのです。変な感じですね

『よしよしッ』

手を伸ばして僕の頭を撫でる由香里さん

『由香里さん、僕もう15才なんですけど、子供じゃないんですけど。』

『ロリ顔のくせに大人びるんじゃないよヒロ。』

くっ…僕が気にしてる事を…！
ならばッ！

『由香里さんって身長140センチ無いよね』

『ヒロって男の子なのに身長150センチしかないよねえ』

『くそっ………』

気にしてる事を次々と…聞いて解るように僕は、身長も低く童顔なので、見た目は小学生なんです

『ヒロくん元気だして！チビで童顔でも可愛いから良いじゃないッ』

『っ』

チビとか言ってるし…

『あーもう。早く行こ』

少し走ると友希の家に着いた
家の前には背の高い細身の男が居た

『よッ友希』

『お姉さん、先生、今日も綺麗ですねッ！いやあゝ眩しいっす！世界二大美女が此処に居るッ！俺は幸せ者だぁ……………あーあとヒロユキういす』

『『やつほー』』

二大美女？が軽く答える

で…………俺の扱いしよぼ！超差別じゃないか

『ああ差別だぜ！！』

『心の声を聞くな。まあいいけど』

友希はいつもこの調子なんだ。

まあ僕の事も差別しつつ親友だと思ってくれているのです

そんな感じで車の中でも談笑していると、しゃぶしゃぶ屋に着いた

店内は一つ一つ区切られている座敷部屋のみの和風な感じだ
しゃぶしゃぶ専門店なんか珍しいので
僕達は少し挙動不審である

『あつ！アタシがしゃぶしゃぶした肉ッ！！取るな糞ガキ！！』

『ひいひい…すんません』

『まあまあ二人供お　パクパク』

由香里さんの肉を友希が箸に引つ掛けてしまい怒られている

『美味しいねえヒロくん。もっと食べなよう…パクパク』

『あー、うん』

姉さんの食べるスピードが早すぎて僕が食べる肉が無いんですが…

『さあ友希ちゃん、アタシ用に肉をしゃぶしゃぶしなさい』

『はいッ了解しましたウキッ』

濡れ衣を着せられて、その罰として命令されてる様だね。可哀相に…でも友希、まんざらでも無さそうだ、心なしか微笑んでいる

『ふう〜食べた食べたあ』

『姉さん肉30枚は食べたよね』

『あはぁ食べたかもねえ』

『太るよ』

『豚肉はヘルシーなんだよおヒロくん』

『……まあ姉さん太らない体質だから大丈夫だろうけど』

『うん……てか友希は？』

『友希ちゃんはアタシの肩揉んでるよ』

『まだ奴隷か』

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0757e/>

ヒロユキと～

2010年10月9日05時44分発行